

PRESS RELEASE

2023年2月1日

一般社団法人カメラ映像機器工業会(CIPA)

「フォトイメージングマーケット統合調査：国内編」の結果について

一般社団法人カメラ映像機器工業会(CIPA：代表理事会長 石塚茂樹)は、デジタルカメラのユーザーを対象に「フォトイメージングマーケット統合調査：国内編」を実施した(調査委託先 株式会社BCN：代表取締役社長 奥田芳恵)。

2年前、2020年10月の調査では、コロナ禍の先行きが全く見えない状況にあってさえ、むしろそうした状況にあってこそ、「カメラがあって良かった」「カメラに支えられた」「カメラの楽しみが深まった」という声を多数聞かせていただくことが出来た。それは、カメラの存在価値と需要が揺るぎないものであるというサインでもあった。

今回の調査は2022年10月に実施。初夏の頃の沈静化ムードに対して、コロナ禍の影が再びちらつき始めた微妙な時期に差し掛かっていた。それでも調査結果は引き続きカメラという商材の力強さを確信させるものであり、それを業界内に留めず広く知っていただく意味でも、そして、カメラの喜びにまだ出会えていない方にとって気付きの機会となることを願って、ここに公表させていただくこととした。

「フォトイメージングマーケット統合調査：国内編」実施概要

1. 調査手法
Web 調査
2. 調査実施時期
2022年10月上旬
全国旅行支援キャンペーン開始直前の時期。
3. 調査対象者
日本国内、女性・男性、10代～70代。
本調査の対象は、デジタルカメラユーザー(過去半年間にカメラを購入された方＋過去半年間にデジタルカメラで30枚以上写真を撮られた方)。
4. サンプル数
1,000名(本調査)、14,306名(予備調査)

「フォトイメージングマーケット統合調査:特別編」結果概要

当調査は選択肢付設問を中心に構成したが、そうしたいわばお仕着せの設問に対する回答に比べてフリーアンサーで聞かれた声が一層分かり易く、かつ発見に富むことから、これを先行する取り纏めとした。

● 目的の被写体が撮れる・被写体に適している…だから、デジタルカメラ。

スマートフォンが傍らにあるのになぜカメラを使い続けるのか。カメラの価値に確信を持ちながらも、ユーザーの声の中に確認したいと考え、フリーアンサーの形式で投げ掛けた。

フリーアンサー：カメラについての考え 内容別分類：ランキング上位10項目		
「写真・動画撮影がどんなに好きか、写真・動画の楽しみ方、カメラを生かすアイデア、スマートフォンではできないこと、カメラがあつて良かったことについて、考えをお聞かせください。」		
第1位	104人	目的の被写体が撮れる・被写体に適している
第2位	60人	スマートフォンと大きな違い・決定的違いがある
第3位	51人	写真が思い出になる
第4位	46人	撮る楽しさ・手応え
第5位	45人	レンズを交換できる・ズーム能力
第6位	44人	高画質・高解像度
第7位	33人	電池のもち・記録媒体・PC連携
第8位	29人	写真は趣味・生きがい
第9位	26人	表現力・表現の幅
第10位	25人	すぐ撮れる・撮り易い

フリーアンサーの内容で最も多かったのは、「目的の被写体が撮れる・被写体に適している」。スマートフォンには困難でも『デジタルカメラなら、撮れる』シチュエーションを挙げた方、スマートフォンに対して『デジタルカメラなら、もっと良く撮れる』シチュエーションを挙げた方があった。

● 撮りたかった被写体…「デジタルカメラなら、撮れる」。

- ▶ 「アスリートの撮影はスマホじゃ足りない」(19歳・女性)
- ▶ 「満天の星空を撮ることができる。動く速いものを撮ることができる」(23歳・男性)
- ▶ 「シャッタースピードがスマートフォンでは調節できないので、動く被写体を撮るときはデジタルカメ

ラを利用しているし、それが楽しみである」(24歳・女性)

- ▶ 「スマートフォンは夜景や花火が苦手」(42歳・男性)
- ▶ 「水中で写真を撮るのでスマホでは太刀打ちできない。水中生物の表情や生態を撮るのが楽しい」(58歳・女性)
- ▶ 「人や乗り物など動いているものはカメラのファインダーを覗きながら撮影する方が安定していて、フレームが決まりやすい、これはスマホではできない」(59歳・男性)
- ▶ 「動きが早いものを撮影するのに、一眼レフはシャッタースピードが早いのでブレが少ない」(61歳・女性)

動いているもの、暗い中での撮影がスマートフォンにとって弱点であることは定評となっているので、これらの回答に驚きはないかもしれない。だからこそ、ソフトウェア処理やスマートフォンのボディーで可能な限りのセンサーやレンズを搭載するアプローチが殊に高級機で見られるが、デジタルカメラなら、ストレスフリーに、撮れて当たり前の領域であることは確認しておきたい。

デジタルカメラならシャッタースピードを調節できるとする声は、正にユーザーの実感値。駆け回る犬を撮る時、鉄道を撮る時、花火を撮る時、ピタッと止めて撮るのか、ダイナミックに軌跡を留めるように撮るのかでは全く別物の写真になるが、デジタルカメラならイメージ通りに撮り分けることができる。ファインダーを覗いて撮るから安定していてフレームが決まるという体感値も、撮るというただそのことだけのために生まれたデジタルカメラ固有の形態から来る絶対的なアドバンテージといえる。

● 撮りたい被写体…デジタルカメラなら、もっと良く撮れる。

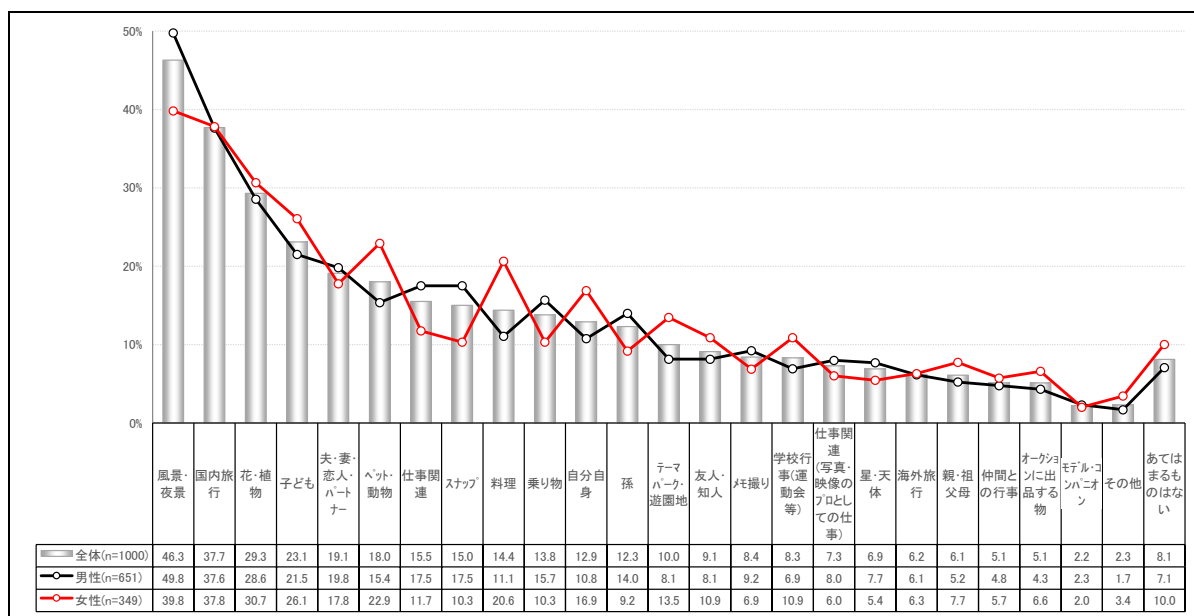
- ▶ 「コロナ禍以前はよく旅行に行き、カメラは欠かせない存在でした。主に風景を撮りますが、スマホより画質が綺麗でプリントアウトしても鮮明に写ります」(37歳・女性)
- ▶ 「子供が生まれるまで写真を全く撮らなかったが、一生に一度の成長を見逃したくないので、写真を撮る楽しみを覚えた」(51歳・男性)
- ▶ 「色んな愛猫を撮影したい。猫の生き生きとした動きやアップの美しさなど、カメラでしか出せないものも多いと思う」(53歳・女性)
- ▶ 「趣味のコンサート撮影はレンズ交換ができるカメラでないと自分が望む美しい映像を撮ることができない」(58歳・男性)
- ▶ 「花の写真を撮影するのに適している」(61歳・男性)
- ▶ 「旅行やウォーキング中にカメラで撮って、旅行ブログにアップするようになった。スマホは画質が良くないので、補助的にしか使わない」(69歳・男性)

▶「主に花の写真を撮っていますが、一眼レフだと画像もきれいですし、操作して撮ることも出来ますから好きです」(72歳・女性)

趣味、譲れないこと、大好きなこと、大好きな人に対してデジタルカメラの存在は欠かせない。

選択肢付回答における被写体別ランキングは下記となった。

✓ デジタルカメラで撮っている被写体ランキング



第1位「風景・夜景」、第2位「国内旅行」、第3位「花・植物」。前回2020年10月調査で第3位だった「国内旅行」と第2位だった「花・植物」の順位が入れ替わった。

外出がままならない状況からの回復局面にあることは確認できるが、デジタルカメラにとっての檜舞台たる「海外旅行」はまだまだ右端近く、少なくとも2022年10月の時点では下位に沈んだままだった。

男女別で男性が女性を上回ったのは、10ポイント差を付けた「風景・夜景」のほか「夫・妻・恋人・パートナー」「仕事関連」「スナップ」「乗り物」「孫」など。

女性が男性を上回ったのは「花・植物」「子ども」「ペット・動物」「料理」「自分自身」「テーマパーク・遊園地」などだが、上位項目の「花・植物」における女性のリードは2ポイントほどに過ぎなかった。

「花・植物」は、コロナ禍の下でさえ撮られ続け、かつ、男女どちらからも人気があり、デジタルカメラの象徴的被写体、不動の存在といえる。

当工業会は、2023年春から夏にかけて、花をテーマにフォトコンテストを開催する。

● 「スマートフォンと大きな違い・決定的な違いがある」。

フリーアンサーの内容で2番目に多かったのは、「スマートフォンと大きな違い・決定的な違いがある」。他の項目の趣旨を含んでいてもスマートフォンとの違いが強調されている場合はこちらに挙げた。

- ▶ 「被写体の魅力を『本当の意味で』引き出すことは、スマートフォンには出来ないと思う」(20歳・男性)
- ▶ 「どんなにスマホの写真機能が向上して一眼レフのような雰囲気撮れるようになっても、スマホ特有の立体感の無さは感じてしまう。性能の高いスマホより安い一眼レフの方が写真に特化している」(21歳・女性)
- ▶ 「スマートフォンでは夕焼け、星空、月を自分が見たままの姿で表現することが難しいです。『こんなに赤くて綺麗な夕焼けなのに写真ではなんでこんなに色褪せてるんだ?』ということが多々あります。最近のスマートフォンは、デジタルカメラを超えると一部では言われていますが全くそんなことはないと思います。たしかに、あの端末の軽さからは考えられないクオリティですが、やはり一眼、デジタルカメラには劣ります」(22歳・女性)
- ▶ 「スマートフォンでは不自然に調整・加工された写真になることがあるが、カメラは自然にナチュラルな写真が撮れる」(28歳・女性)
- ▶ 「スポーツ観戦でよくカメラを使用しますが、スマホでは撮りきれない躍動感をカメラでは撮ることができます」(36歳・女性)
- ▶ 「スマホだと端の人は膨張して写ってしまうがデジカメだと膨張しないので、人を端にした構図の写真がキレイに撮れる」(39歳・女性)
- ▶ 「カメラのほうがより生々しく撮影できるのでカメラがあつてよかったです」(46歳・男性)
- ▶ 「花の色など細部まで綺麗に写る。発色も良い。スマホでもある程度綺麗には写るが、カメラ【一眼レフ・ミラーレス】とは比較にならない」(52歳・女性)
- ▶ 「体の一部のように自在に撮影できる」(61歳・男性)
- ▶ 「スマホの小さなレンズではマクロ撮影が殆どまともな撮影ができないので昆虫や小さな花の撮影はカメラで無いと無理」(68歳・男性)

デジタルカメラで撮る写真は「生々しい」「ナチュラル」。

これに類するコメントは、ここで紹介させていただいたもの以外にも「立体感がある」「見たままに近い」「現実味がある」「臨場感がある」「奥行きが深い」などといった声として聞かれた。

● 「写真が思い出になる」。

フリーアンサーの内容第3位は「写真が思い出になる」。

写真に残すのだから当たり前と捉えてしまいがちであるが、大切な思い出を美しくは常にキーワードで、コロナ禍を経験して重要度を増したともいえる。

- ▶ 「画質が良い。記憶を大切に保管できる」(22歳・女性)
- ▶ 「その時には何でもない一瞬や日常だったりすることが後になって本当に幸せだったな、ありがたかったな、と見返したときに心を温かくし自分を救ってくれることがあった。だから、なんでもない一瞬や日常を写真に残しておきたいと思う」(39歳・女性)
- ▶ 「カメラがあって、思い出を素敵に残せて良かった」(43歳・女性)

● 「撮る楽しさ・手応え」。

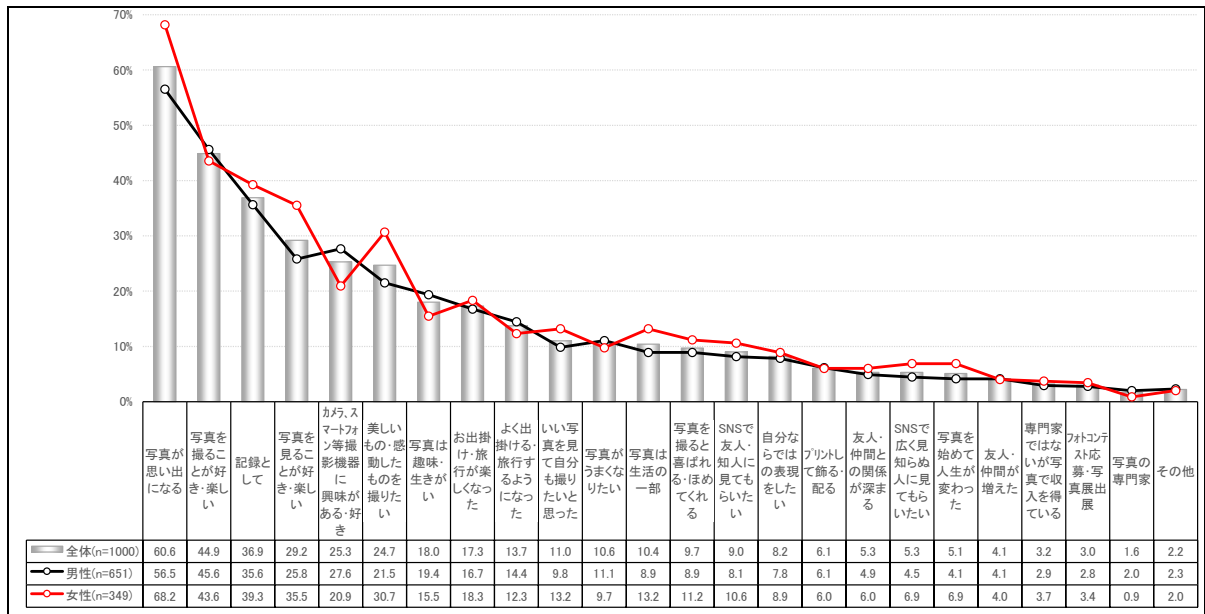
第4位は「撮る楽しさ・手応え」。

- ▶ 「カメラで写真を撮るとき、スマートフォンで写真を撮るときよりも“写真を撮っている”という実感が湧くことがカメラがあって良かったことです」(18歳・男性)
- ▶ 「気分の向上」(23歳・男性)
- ▶ 「撮りたいものを撮るために、現地に赴いて光線状態を考えて、いかに自分の思う作品に仕上げられるかを考えるのが楽しい」(29歳・男性)
- ▶ 「カメラは撮影自体が楽しい」(36歳・男性)
- ▶ 「写真を撮っている感があって楽しい」(38歳・女性)
- ▶ 「普段気づかない発見があり、記憶をカラフルにしてくれる」(39歳・女性)
- ▶ 「カメラで撮影すること自体が楽しい」(51歳・女性)
- ▶ 「カメラの場合は、目的意識を持って撮影しに行く」(69歳・男性)
- ▶ 「どのように撮ったら美しく見えるか色々試してみる」(72歳・男性)
- ▶ 「あらかじめどのような場所でどのような設定で撮影するかイメージがある時は、スマホでなくカメラを駆使したいと思います」(70歳・女性)
- ▶ 「じっくり撮れる」(77歳・女性)

「気分の向上」「カメラは撮影自体が楽しい」をはじめとして、それがそのままデジタルカメラを手にするモチベーションと置き換えられる声も目立つ。

選択肢付回答における写真を撮る理由(モチベーション)は次の通りとなった。

✓ 写真を撮る理由(モチベーション)ランキング



「写真が思い出になる」「写真を撮ることが好き・楽しい」がここでも上位に来たが、フリーアンサーではスマートフォンとの比較も視点の1つとして聞いたのに対して当設問は単に「写真を撮る理由」として聞いたことから、「記録として」が上位の一角となるなどの違いが出た。

男女別では、「写真が思い出になる」で女性が男性を11ポイント以上回ったほか、「写真を『撮る』ことが好き・楽しい」は男性が僅かに高い一方で「写真を『見る』ことが好き・楽しい」は女性が男性を9ポイント以上上回った。

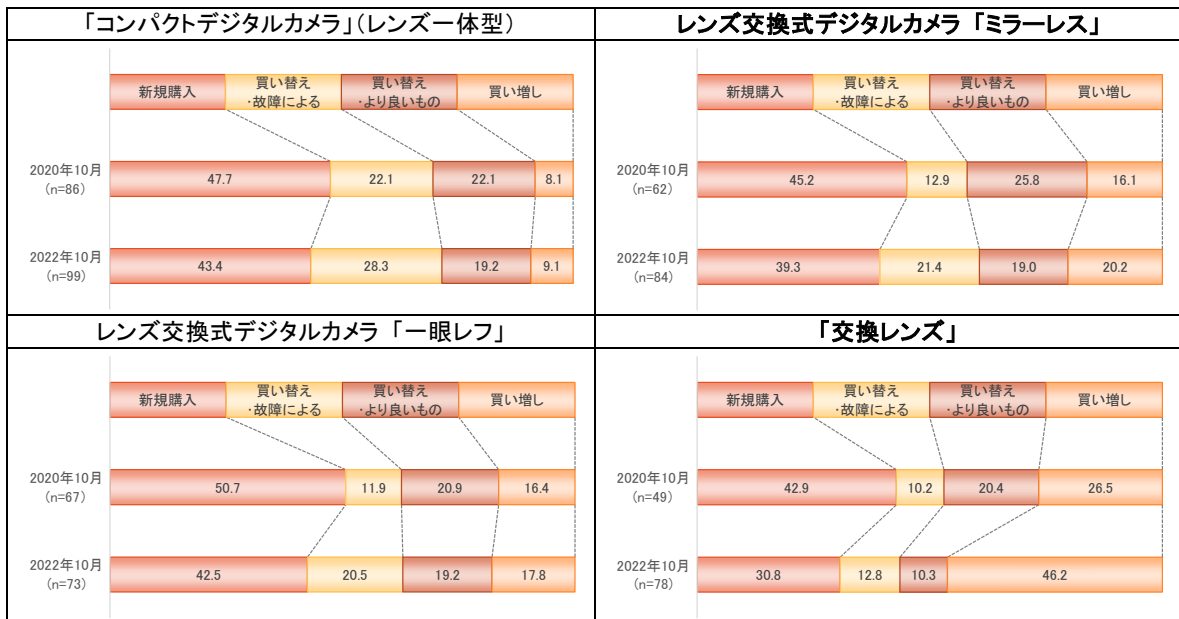
● 「レンズを交換できる・ズーム能力」「高画質・高解像度」。

第5位「レンズを交換できる・ズーム能力」、第6位「高画質・高解像度」。デジタルカメラ・マーケットは、レンズを交換できるデジタルカメラ、すなわちミラーレスと一眼レフが今や4分の3を占める。

- ▶ 「カメラだとズームをしてもぼやけないのが良いです」(30歳・男性)
- ▶ 「ズームしても綺麗に写真が撮れるから離れている所でも写真が撮れる」(34歳・女性)
- ▶ 「接写から望遠まで幅広く対応できること」(47歳・女性)
- ▶ 「マクロ撮影やズームの精度など、全然違うと思う。レンズを交換できるのも面白い」(54歳・男性)
- ▶ 「カメラのほうがきれいに撮れる」(19歳・女性)
- ▶ 「やっぱり写真のきれいさでいったらカメラの方が上だと思う」(21歳・女性)
- ▶ 「カメラを使うとスマホより鮮明に写る」(22歳・女性)

✓ デジタルカメラ及び交換レンズ購入動機構成比

調査時点から遡って半年以内(2022年春から秋にかけて)の購入者に購買動機を聞いた。



「交換レンズ」(「ミラーレス」や「一眼レフ」と組み合わせるレンズ)の「買い増し」は2020年10月調査でも26.5%と高かったが、2022年10月調査では46.2%に達した。

半年以内の購入かつ「交換レンズ」であり調査全体に比べて母数が限られるため一喜一憂はし難いが、これぞというレンズに換えて被写体に向き合う行為がいかにかハマるものなのか、十二分に窺える結果となった。

● 「電池のもち・記録媒体・PC連携」。

第7位「電池のもち・記録媒体・PC連携」。画質と異なる視点として、内蔵メモリーの容量の違いで本体の価格帯が上がってしまうようなことなどなくメモリーカードで必要な容量を備えられる点、撮影に余裕を持って臨める電池などメリットが語られた。

デジタルカメラにとって当たり前で忘れていられるようなこと、撮影に没頭してさえいればもうそれで良いということが、スマートフォンは必ずしもそうではなく、その解消には内蔵メモリーの大きい機種への投資、外部バッテリーの購入・携行などといった形で支出や負荷につながってしまうことがある。

- ▶ 「記録媒体を持っていれば写真容量を気にせずに好きに撮影できる」(19歳・女性)
- ▶ 「SDカードに記録ができるとその後パソコンで分類・修正などがしやすい(スマートフォンのファイル管理アプリは使いにくい)。また、スマホと役割分担することで、スマホの電池・ストレージを節約できる」(24歳・女性)

- ▶ 「スマホは他の容量も考慮しなければいけないが、容量を気にせずに高画質で撮影できる」(25歳・女性)
- ▶ 「スマホの充電を気にせずに撮影出来る」(32歳・女性)
- ▶ 「カメラだとデータの整理が楽だし」(41歳・男性)
- ▶ 「バッテリーのもち。メモリーの容量」(53歳・男性)
- ▶ 「カメラの方が撮ったデータを直ぐに他の機器で編集等できる」(61歳・男性)
- ▶ 「スマホで撮ると、あっという間に電池が消耗するので困る」(75歳・女性)

● 「写真は趣味・生きがい」。

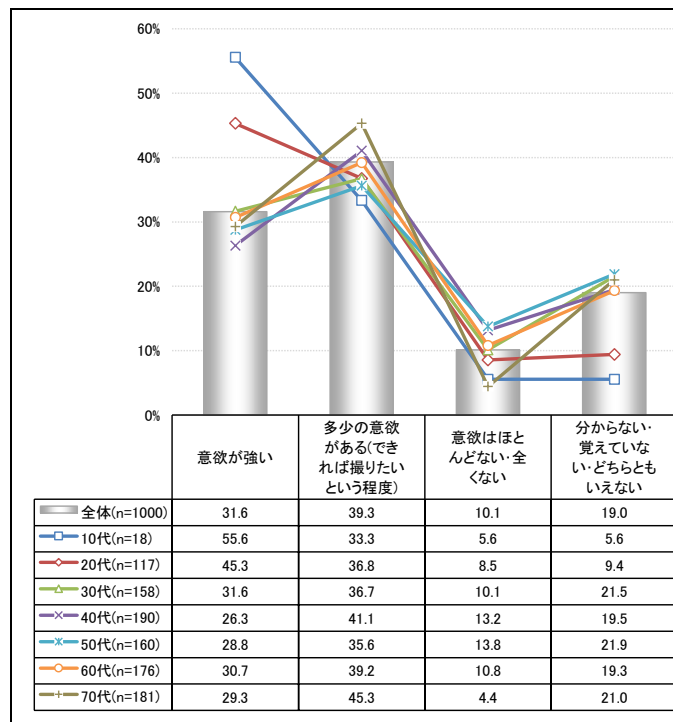
第8位「写真は趣味・生きがい」、先の選択肢付設問「写真を撮る理由」ではほぼ同水準、第7位だった。一言一句たりとも聞き逃すことのできない、貴重な声として受け止めたい。

- ▶ 「写真を撮るという趣味が見つかった」(18歳・男性)
- ▶ 「日々の生活が楽しくなる。新しい発見ができる」(20歳・男性)
- ▶ 「写真は自分の見ている視点でその景色を共有できる素晴らしさがある、そして共感を得た時の喜びは何にも変え難い喜びがある」(26歳・男性)
- ▶ 「生きがいもてるようになり楽しくなった」(37歳・女性)
- ▶ 「PLフィルター、ストロボ、フードに交換レンズとカメラがあれば、大概の旅行先でいい写真が撮れる。建物、風景、仏像など興味のある被写体が撮れ、より写真の勉強したくなり、フォトマスター検定を受験予定」(42歳・男性)
- ▶ 「人とのコミュニケーションのツールになる」(49歳・女性)
- ▶ 「友人関係の構築。新趣味」(53歳・男性)
- ▶ 「写真歴50年です。花の写真を中心としたブログをやっています。ブログのおかげで、色々な人と知り合えました」(59歳・男性)
- ▶ 「自分の目で見える景色が、レンズを通して写真にすると違う景色に見えたり、何か別の意味を持つ風景に見えたりするところが面白く、この辺のニュアンスはスマホの撮影では得られない微妙な趣があると思います。マクロレンズや望遠レンズでは、肉眼では決して見ることのできないものを写真として残すことができる。毎日が新しいおもしろさであり、わくわくがあります。私は難病患者ですが、カメラを持つときやパソコンでの画像編集の時などは、痛みや苦しみを忘れることができます。カメラがこんなに面白いものとは思わなかった。カメラ、写真と出会えたきっかけは、見ず知らずの方のブログでした。その方は私の拙いブログにも訪問・コメントを下さり、撮影のヒントなどを教えてくださいます。写真を通して大きな楽しみを得ることができました」(60歳・女性)

- ▶ 「森に行ってリスを撮影しており、動物の好きな孫が喜んでいる」(61歳・男性)
- ▶ 「本当に好きでたまらない」(66歳・男性)

✓ 写真を撮る意欲:2022年10月時点

デジタルカメラ・マーケットはスマートフォンの煽りを受けたと見られがちであるがそれは一面に過ぎない。誰の手にもスマートフォンがある時代になったことで、もっと良い写真を撮りたいという思いに駆られる、デジタルカメラの潜在需要層が格段に増えた側面がある。デジタルカメラを趣味とするのは年配層ばかりと見られがちなか中で若い年代の熱量も随所に感じられる調査となったが、「スマホ・ネイティブ」の世代がスマートフォンという大切なステップを踏んでデジタルカメラを手にしたからこそ熱量が上がる、アクセルが踏まれる、そんなストーリーがイメージ出来る。選択肢付回答における「写真を撮る意欲」は下記となった。



「意欲が強い」は20代以下でひと際高かった。

● 「表現力・表現の幅」「すぐ撮れる・撮り易い」。

第9位「表現力・表現の幅」、第10位「すぐ撮れる・撮り易い」。

- ▶ 「色合いなどをいじってから撮れるのがワクワクする」(25歳・女性)
- ▶ 「自分らしさを表現しやすい」(28歳・女性)
- ▶ 「目で見たままではない美しい世界を見ることができる」(38歳・女性)

- ▶ 「細かい設定は、カメラでないとできないので、カメラがあって良かったです」(53歳・女性)
- ▶ 「すぐに撮影できる」(23歳・男性)
- ▶ 「ピントを合わせるのがうまく行く」(46歳・女性)
- ▶ 「操作性が圧倒的に楽。」(50歳・女性)
- ▶ 「スマホよりもカメラの方が撮影しやすいポジションがとしやすい」(61歳・女性)

先の「スマートフォンと大きな違い・決定的な違いがある」の中に「ナチュラル」「生々しい」という声があったが、ここでは「見たままではない美しい世界」という、対極的な視点が示された。

● スマートフォンを推すコメントも。

当調査の対象はデジタルカメラ・ユーザーでありデジタルカメラ推しのコメントが目立つ。そうしたいわばアウェーの中にあってもスマートフォン推しのコメントが見られた。

スマートフォン推しのコメント

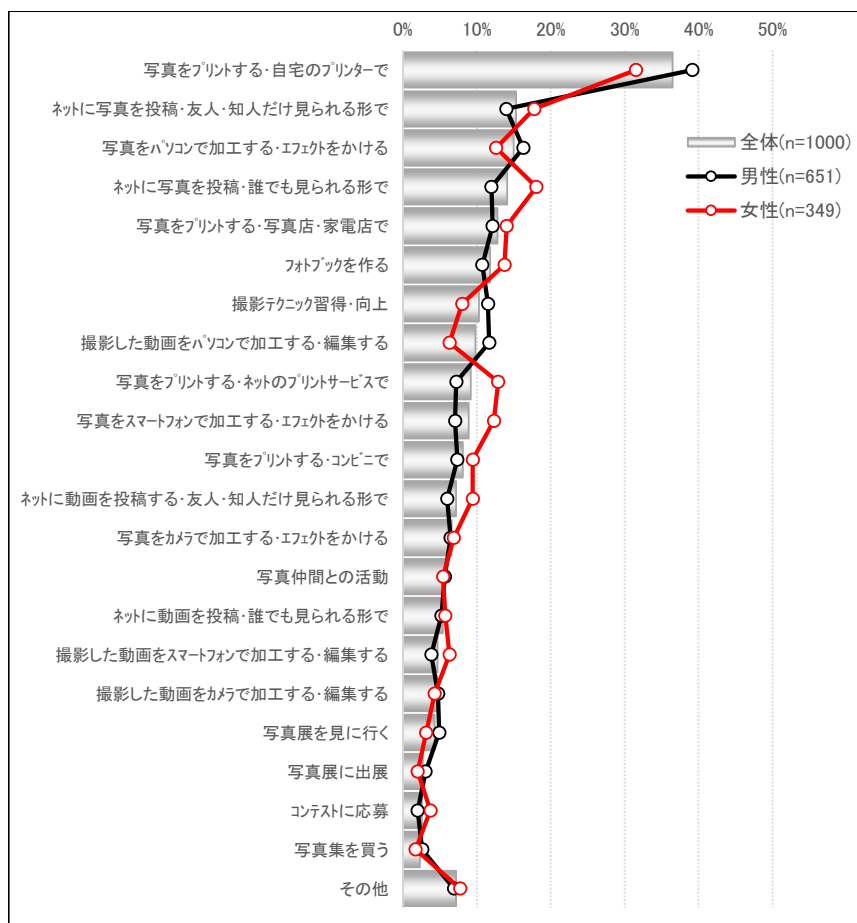
- ▶ 「スマホよりカメラのほうが綺麗にとれるが、加工はスマホが手軽で便利」(32歳・女性)
- ▶ 「学校の参観日で写真を撮りたいとき、カメラは嫌がられるが、スマートフォンで撮るのは黙認される」(47歳・女性)
- ▶ 「スマートフォンの場合、記念写真を撮るのにシャッターを押してくれる人がいなかった際の「自撮り」が容易になったのは大きい」(53歳・男性)

スマートフォン使い分け派のコメント

- ▶ 「楽しみ方はスマホと変わりはないが、子どもの写真は毎月印刷してアルバムを作っているので、画質を良くするために極力カメラで撮るようにしている」(38歳・女性)
- ▶ 「もともと風景や道端の草花などを撮るのが好きでカメラを持ち歩いてきた。子どもが生まれてからは主に子どもの成長の記録や日常の風景を撮るようになった。スマホは荷物にならず家でも外でも手軽に撮影でき、家族や SNS とすぐに共有できるところが便利である。デジカメ(一眼)はやはりスマホより画質が圧倒的に良く、光学ズーム・撮影モードの豊富さに魅力があり、遠景や学校行事の撮影に欠かせない。それぞれ良さがあり使い分けるのが今のスタイルに合っている」(41歳・女性)
- ▶ 「水中の生物の記録としてコンデジを使っている。その生物を特定するうえで画像は必須である。また、生物の繁殖行動などは動画で撮影している。日常の出来事を SNS で発信するためにスマートフォンで撮影している。季節ごとに変わる周辺の風景が記録されて思い出になる」(56歳・女性)

✓ 写真の楽しみ方:ランキング

写真の楽しみ方については、できるだけたくさんの選択肢を設けて聞いた。



多様な楽しみ方がある中で第1位「写真をプリントする:自宅のプリンターで」が大きく抜け出た。

リモートワーク化で急ぎ家庭内にプリンターを導入する動きが見られたことの効果、おうち時間の楽しみの一つとして、写真をプリントする行為が大いに見直されている可能性がある。

以上、調査結果より抜粋。

回答者の皆様に心より感謝申し上げます。

当工業会は、2023年2月23日(木・祝)～同26日(日)、CP+2023を開催します。

当調査については、CP+2023「CIPA マーケットセミナー」の中でより詳細なご報告を予定します。

● 本件問い合わせ先

一般社団法人カメラ映像機器工業会 CIPA

E-mail: infostat@cipa.jp